

ファッション都市へ向けて ネットワークづくりを

△座談会出席者▽

松谷富士夫〈神戸婦人子供服小売商組合
△副代表取締役〉

田中勇二郎〈コウベファッションアソシエーション専務
△理事・事務局長
コウベファッショントウン協議会専務理事〉

中西 省伍〈コウベファッションクリエーター会長
△サロン・デ・モード中西社長〉

山田 幸男〈コウベファッションリョウニン事務局長
△山菜六段社長〉

―神戸がファッション都市を目指して、既に十二年を経過してきました。これも全国に魅けてのことであつたわけですが、神戸は幸いにもファッション都市としての基盤を十分に持っていたわけで、これらの要素がすべてKF活動に繋がっているわけです。ここに、その力を結

集しようということとです。小誌もその結集に力を尽したい所存です。

★神戸のイメージづくり貢献してきたコウベファッショングループの今後の動向

田中 ポートアイランドにあるファッショントウンでは今秋には進出企

藤本ハルミ〈コウベファッションモデルスト会長
△デザイナー〉

荒津 正美〈コウベファッションソサエティ会長
△神戸港ドレス代表取締役〉

高橋 洋三〈真珠の街神戸を考えるプロジェクト会議
△タカハシパール専務〉

司会・小泉 康夫〈月刊神戸子編集長〉

業のほとんどの社屋が完成する予定ですので、そこで一度くぎりをつけて町づくりに取り組むつもりです。昨暮にインターナショナルスクエアのポートアイ大通り西側にノエビア、フジッ子と谷岡学園グループの中京女子大学による情報工学研究所が建設されることが決まりました、それらを含めて全体で38社になります。しかし、その中に関連会社もあるので数字は、変わってくると思います。そうした中で、各社のビル自体は、それぞれ高い評価を得ているわけですが、町としての雰囲気になったくとぼしく、どちらかというとまだ建物の冷たさが残った街であるという問題が指摘されていますが、街は一朝一夕でできるものではありませんので、多少の歳月を経て、目指す街づくりを考えていけばいいと思います。

高橋 我々真珠業界がファッション都市を意識しはじめたのはまだ新しいことです。真珠を商っている、全国、全世界とつながりを持てますが、どうしても地元の方とのつながりがうまいという感じがこれまででしたので、ポートピア81を機会に我々も神戸のファッション産業の一つであると業界自体がはっきりと認識を持つ



松谷富士夫さん



田中勇二郎さん



高橋 洋三さん



荒津 正美さん



藤本ハルミさん



山田 幸男さん



中西 省伍さん

ようになり、それ以後はできるだけいろいろな意味で神戸のイメージアップのために努力を重ねてきました。

そこで、本年度は神戸の真珠業界の対外的な広報活動を統一しようとPCK推進協議会を現在、4月設立を目指して準備中です。の中には従来からPCKの活動に協力していただいた企業の方々はむろんのことこれを機に神戸の真珠に係のある方も運動に加わっていただこうと思っています。

ですから、今後は、組織として皆さんと同じテーブルでお話しさせていただく機会もできることと思います。

中西 KFCができて10年が過ぎましたが、当初の目

的は、神戸の個人のデザイナーが一人一人でやるよりもファッション都市として活動する中で何かアクションを起こせたらということでクリエイターが寄り集まって、KFCができたわけです。

その作品発表も10年やって、一くぎりついたのでここで何か新しいことをKFCで考えないといけないと思います、現在、KFCのメンバー11人で再誕生の方向を模索しているのが現状です。

荒津 KFSはもとも神戸市のファッション都市宣言の時に、ファッション市民大学ができて、その中のOBが、このまま皆が離れ離れになるのはさびしいのではないかということから最初第1期生から5期生までが集まりまして、それでKFSが、昭和49年にできて以来12年間続いています。私どもの会には現在、服飾関係の方はもちろんのことシューズ、真珠、食品、家具、美容、理容などいろんな方がおられまして、最初は親睦のためだけに集まってこられたわけですが、せっかくこうしてやってくるわけだから同じファッション関係に従事しているものとして勉強会すればどうかということで、マンスリーサロンを毎月一回、いろんな講師をお招きしまして開いております。また、年2回はファッション公開講座を開き、ファッション関連企業で活躍の方にも参加していただき、立亀長三さんを講師に、ヨーロッパ、ニューヨークファッションをスライドで見せていただいたりしております。こうした勉強会は、個人の自己啓発を目的として開かれております。また、私もいろいろな方々の協力を得て発行しております「スイング」も第4号を数えるに至りました。

また、当会のメンバーで神戸市の身体障害者の施設に勤務の米田さんがライフワークで身障者のファッションを手がけておられますので、それも最初からずっと私どものメンバー7、8人でお手伝いさせていただいており、このスイングにも創刊以来載せておりますが、なかなか好評をいただいております。

松谷 現在、KFKのメンバーは52社で、中央を主体としたほとんどの店が加盟しています。ファッション都市宣言をした神戸ならではの、他都市から来て恥かしくない小売業としての啓蒙を意識しながら優良店としての意識づくりをグループでしていきたいと思います。そのため組合員のレベルアップも必要ですね。また、KFKとしては、商工会議所のキャンペーンのときに率先して周辺の方々へ模範を示したり、会員相互の親睦を深めるために、従業員を含めて、船を借りて神戸港を巡回する納涼大会などを行なっています。私どもは、小売部門なのでお客さんと直接、接する機会が多いので、お客さんのニーズを調べて製造の方へ情報を流して、より神戸らしさを追求した商品を作れると思います。神戸のファッションは洗練されているうえ、お客さんにもハイセンスな方が多いので、東京で作ったものでも、神戸のお客さんにアピールできるものでないといけません。その辺を強調しながらグループの意識として持って活動していきたいと思っています。

藤本 KFMは、KFCと同じようにデザイナーの集りですが、高級オートクチュール的な作品を作るデザイナーの人が多く、そのデザイナーのクリエイティブなところを伸ばすためのグループです。いわゆるアパレルさんがやっておられるような世界中のファッションの流れとはなんとなく離れたところで作品を作っているグループといえます。

KFMではポートピア'81の前年に会が結成し、ポートピアの年にポートピア'81へのプレリユードを開催してからKTFDF含めて7回、ファッションショーを開きましたが、神戸はパールと縁が深いこともあって、去年も田崎真珠や大月真珠をはじめとする7社に応援していただきまして、ファッションショーを開きました。ファッションショーは大変ですが、デザイナーは何か目標がないと日常なまけてしまいますね(笑)。ショーはそれなりにみんな一生懸命やっていますが、神戸のショーを日本中

の人口に知ってもらいたいと働きかけています。2、3年前から婦人画報や「ハイファッション」、朝日TVのモーニングショーなどで取り上げてもらいました。

山田 KFRは料理のRです。会員構成がオーナーと職人なので、集いに行ないますとオーナーは出席しやすいが職人の方がでにくいというのが悩みです。

最近、日本料理は世界を席捲するというような勢いで、頼もしく思っています。しかし、どうも日本では料理人の社会的な地位が低くて、例えば文化賞の対象などにもならない。これはお話しですが、日本の文明開化を起したのは、日本の伝統料理を食べなかった日本料理の何んたるかを知らない下級武士によって文明開化がすすめられたためフランス料理を導入した、その為だと言われています(笑)。

明治で日本料理の流れが寸断されたわけですね。最近、文化を大事にしななければということで、食べることについて誰れもが語るようになりました。そして、本当に神戸の食文化は日本一だと思いが、一方で、文化としての「食」意識に欠けていると思うのです。例えばパティなど見掛けることですが、テーブルに群らがって、食のマナーが確立されていないと思います。すばらしい先生方が非常にひどい状況を呈しておられます。こんなことを会員同士でどうしたら意識改革ができるだろうかという話になっています。

神戸では、ファッシオンタウンの敷地のなかに、超一流のものが集まるような場所を提供していただいて、家具も一流であれば、料理も一流、飾る物も超一流という全部一流という場所、あいているときは学校にしていただけばと思いが、そういう場所を作ってもらえればきっとベイできると思いますね。そこが推進母体となつて神戸市の文化賞、食文化の文化賞をまずファッション都市宣言をしているような街ですので、全国に先がけて食文化で活躍されている方に差し上げるようなことを考えてほしい。それには我々の小さな力では無理なので

ネットワークを作って、みんなで協力すれば、神戸らしさをアピールすることができると思います。食べることは、一番文化を伝達しやすいと思いますね。

高橋 大阪で食博覧会がありました、神戸では甘味を出したデザートフェアを青年会議所が3年続けてやっていますのでそれを拡大してゆけば神戸は確かに食べ物がおいしい町なので楽しいイベントになると思います。

田中 昭和47年にKFAを結成しまして、当初は任意団体でスタートしたわけですが、53年に協同組合方式をとって、特にオールスタイルの川上社長を中心にファッションは環境の産物だという考え方から町づくり、環境づくり一本にしほってきました。実際形となっているのはKFAの中からファッション街区を作ろうという動きがでて、そのグループができてそのグループがただ装いの分野だけでなく広く生活文化ということで、いろいろの業種が集まって現在はファッションタウン協議会という形をとっているわけです。ファッションショーも10年ぐらい続けていますが、他都市のアパレル会社がビジネスオンリーでショーをやっているのに対し、いわゆる市民のためのショーという形でやっているのは神戸ぐらいじゃないかと思います。

神戸にはKFAと名のつくグループがいくつかあるわけですから、みなさんと力をあわせて文化の創造といえばオーバーかもしませんが、そういう活動をぜひ続けていかなければいけないと思います。ファッションタウンに新しい建物を作ることは現実に用地もありませんので無理ですが、神戸商工会議所がファッションタウンにビル建設の動きもありますので、そこにみなさんの意見で、ファッションタウンにふさわしい内容を盛り込んだ、ビルにしてほしいと働きかけていきたいですね。

それとファッションタウンの個々のビルは確かに立派ですがもう一つ国際性という面で、もう一つシンボリックなもの、国際的に通用するもの建ててほしいと思います。全国的なあるいは外国の著名な建築家にスカッとし

た、とにかく国際的に通用するものつくってもらってその中にいろいろなことできる施設ができないものかと思っております。

★神戸のPR強化のためにファッショングループの大同団結を

藤本 ファッションマンズが作られて、京阪神が同時にショーをすることになったときははじめそれを聞いて関東に対して関西がまとまって、頑張ろうということではないなあと思ったのですが、実際やってみるとまとまりがあるようにみえますが、実際には何も無い、むしろ逆に京都のお客さんが私たちのショーを見にくてくれたのが、同時期に、他の所でもショーやっているので来れないとかモデルさんがつかまりにくいとか逆に思いがけない問題がでてきましたね。私はやはり、京阪神が同時にショーをやるならば、どこかでドッキングして、京阪神が一つの土俵の上になってイベントするというのがないとか何にも意味がないと思います。

田中 個々の団体とかグループでのPR局では底辺が小さく弱いので、PR面からも、生活文化のグループが大同団結をして組織づくりをしてそれで訴えていくことを考えたい。神戸にも記者クラブ等あるわけですが、業界誌の記者たちが集まれるサロンの場所と機会を年に何回かつくって、そういう人と交流する必要があるように思います。そして、そこを情報サロンにしたいのです。これは、神戸のすべてのファッション関連の人たちが交流できる場にもなるでしょう。

PRのやり方にしても、コーディネートやプロデュースできる人が神戸には少ないので、人材が育つ環境を工学研究所等に、我々はソフトタッチオフィスビルと申しておるわけですが、ソフト関係の人たちが集まれるオフィスをぜひ設置していただくことにより、環境づくりをしていきたい。現状では、それぞれの企業がボン、ボンと花火を打ち上げているだけで、もう一つ全体として

の色とりどりさというか、鮮やかさに欠けています。

中西 これまでは、KFとついたグループがそれぞれの形で活動を続けてきて、それなりの成果をあげたわけですが、これからはファッションは生活文化なんだという意識で市民レベルでファッションでワツとくる、あるいは生活の一つのリズムをそこで変えられるような、たとえば神戸ファッションデーというような全市民のイベントができないだろうか。そういうものできてくれば神戸のファッションアクションが全国的な注目をあびるのではないのでしょうか。

★若い感性を結集してファッション都市づくりをめざす田中 若い人たちが集まれる場所がありませんので、そういう人が集まれるパーティを企画すればいいと思う。最近、男性もファッションに凝りはじめてますし、新聞などみましてもメンズの服飾メーカーがパーティをやり始めているという記事もありますので、そういう意味では二番せんじかもしませんが、若い人たちが中心になったパーティをぜひ企画すればいいと思うんですね。

松谷 専門店、個性的なので協同で事業することはたいへんむづかしいことだと思います。KFでもファッションショーやりましたけどなかなか足並みがそろわないのですよ。神戸は行政の力が強いですから、協同事業は市とタイアップしてやったほうがいいと思います。

神戸には確かにいいロケーションがありますが、ポータイランドだけでなく北野もあるわけだし、全市をあげて神戸ファッションをアピールできるようにしたいですね。

高橋 神戸のものはPRがうまくできていない。情報の発信基地にはなっていません。イメージは発信してるのですが、ハードウェアは、神戸はここ10年くらいで大きな変革をとげましたが、ソフト面は市民レベルで作っていく要素が多いと思います。イベントをプロデュースしていくとか、市民の人々に生活を楽しむべきというライ

フスタイルを定着させる努力を我々がしないといけないと思います。それを推進していくのは、若い感性だと思います。その感性をうまく引き出すようにしかけていかないといいけません。

PCKは北野町と真珠を結びつけたイメージづくりを考えています。具体的には通りにパールストリートと名づけたらしてやるわけです。街そのものがファッションなんだということを体で表わす。集まった人たちが体でファッションを表わす市民参加の動きを考えていきたい。

松谷 ファッション大学の完成を急いでほしいですね。そして、市民を啓蒙するためにも物作りだけでなくハウスマスカンの養成も重要です。この人がいないといくらいい店をつくってもだめなんですね。販売員がスタイリストで、お客さんへアドバイスしないと商品が売れない。田中 学園都市のファッション工科大学は、ファッション産業のための人材育成機関と思われがちですが、そうではなくて産業のファッション化のための人材育成というたいへん広い意味での人材を養成する新しい形態の学校です。63年4月開校が待ちどろしいですね。

高橋 組織間のレベル調整も必要です。その意味でぜひともネットワークづくりが必要になります。行動力は青年会議所がかなり持っていますのでタイアップすることも必要でしょう。

中西 全市民的意識改革をしていけたらいいと思います。全市民的にファッションデーを設けて、神戸祭りのように北区ファッションデー、とか西区ファッションデー、とか区別にして、会場では楽しい趣旨を凝らしたイベントをやって、もちろんおいしいものが食べられるといったことを考え、全市民的考えをまとめていく役としてなんとかみんなで力を合せてファッションネットワークづくりを考えてほしいと思います。

田崎真珠株式会社

取締役社長 田崎 俊作
神戸市中央区港島中町6-3-2
TEL (078) 302-3321

株式会社南インターナショナル

代表取締役 南 泰吉
神戸市中央区浜辺通5丁目1-14
神戸商工貿易センタービル1701
TEL (078) 232-1301



キャンペーン「国際文化都市神戸を考える」の
企画は以上2社の提供によるものです。



Hyogo Walk

マンガ・高橋 孟

香住第二中に脈打つ奉仕精神 ～国鉄佐津駅清掃20年～

同じ兵庫県内でも、瀬戸内海側と日本海側では、随分気候が違うものです。今回は、神戸を遠く離れ、冬の但馬地方を尋ねてみました。香住に近づくにつれ、雪が深くなる一方で気温もかなり低く、底冷えがするなか、国鉄山陰線佐津駅に到着しました。

この駅で、香住第二中学校の生徒たちが、清掃のボランティア活動をやっているのです。駅の本戸をあげ、待合室に入ると間もなく、生徒たちが、手にホウキ、バケツなどを持ちさっそく作業にかり始めました。毎週土曜日の放課後、全校生が交替で清掃しているので、駅内は清潔そのもの。それでも、小さなゴミも見逃さず、陸橋の階段や、ホーム、待合室、駅玄関口をていねいに掃除していきます。約30分後、清掃は終了し、駅は一段ときれいになりましたが、清掃だけでなく時には四季の花々を持ち寄って待合室などに飾り、乗降客の目を楽しませてくれるそうです。

こういった奉仕活動が、もう20年も続けられており、先輩から後輩へ、脈々とボランティア精神が、受け継がれています。昨年12月3日には、長年にわたる地道な活動に対し、国鉄総裁から感謝状が贈られ、またこれまでも兵庫県からのじきく賞を受けるなど、高い評価を得ています。黙々と清掃作業を続ける生徒たちの姿に、さわやかな印象を受け、心温まる思いでした。ここで香住を離れ、出石へと向かいました。





陸橋の階段

陸橋



佐津駅

木製の駅名



ゴム長

雪の中の生活は大変なんだなア...

自転車置き場



駅玄関の雪かきや掃除

ほんまや

出石の静思堂で沈思の時を ～齋藤隆夫記念館をたずねて～

そば処で知られる出石町に、静思堂、という建物があるのをご存知ですか。出石出身の昭和の政治家、齋藤隆夫氏の記念館として、昭和58年10月、財団法人齋藤顕彰会によって建てられました。その名の由来は、「大観静思」という辞句から採ったもので、戦時中であって、軍部を痛烈に批判し、日本の未来を憂えた齋藤隆夫代議士の思想の根本ということです。宮脇檀氏の設計で、周囲との違和感もなくまさに土地から自然に生まれ出た建物で、昨年10月には、兵庫県から第1回みどりの建築賞を受賞しています。

正面の門を入ると、目の前には樹と砂だけで構成された中庭が広がり、左手には母屋へと続く回廊があり、その静かなたたずまいに落ち着きをおぼえます。母屋の中には、故齋藤代議士の遺品や遺稿が展示された部屋のほかに、静思堂のもう一つの目的である「静かに思いをめぐらせる空間」として、簡素な板張りの集会室があります。その中央には、大型の炉が床に2本設置され、論議、思索の場として最適。また、低い軒下の縁側に腰かけて、中庭を見ながら思いをめぐらすこともできます。街の喧噪を忘れ、しんと降り積もる雪を見ながらのひとときは、自分自身を見つめる貴重な時間となりました。日常を離れて、思索の時間を持つゆとりを忘れずにいたいものですね。

静思堂～齋藤隆夫記念館

〒668-02 兵庫県出石郡出石町中村宮ノ下 TEL079652-5643

■マイカー、観光バスご利用の方

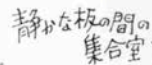
神戸→福崎→市川→和田山→八尾→出石

■国鉄ご利用の方

山陰線豊岡駅下車 出石行バスで約30分

これまで、兵庫県内の各地を訪ねてきましたが、強く感じたのは緑あふれる生活空間が人間にとってなにより必要だということでした。現在でも、それは着実に進んでいます。兵庫県が進めている全県全土公園化運動がそれです。一人一人が緑を愛して育てていく気持ちをもつことがますます大事になってきますね。





★「惑星と神話の世界」

例年10月に行なわれていたドレメファッションフェアが、今年度から毎年1月、同校姉妹校の明石短期大学と合同で開催されることになった。第一回目の今年度は1月18日(土)、兵庫県農業会館で開催された。



「惑星と神話の世界」

テーマは「惑星と神話の世界」。今話題のハレー彗星を中心に、水星、金星、火星、土星などのファンタジックな惑星の世界を、学生たちの新鮮な感覚がたっぷりあがっていた。様々な素材とデザインによって制作された作品を、本職のモデルはもちろん、学生たちが自身が生み出したモデルとしてショーを盛り立てた。遊びごころいっぺいのフリーカージュアルから、キモノをアレンジした神秘的なドレスなど、若者らしい感性をステージに披露していた。

★正統派を貫く芦田淳コレクション



パステルカラーが華やかなアンサンブルも大変上品に

シャベットグリーン、ブルー、ピンク等春色に包まれた芦田淳の「春夏コレクション」が2月6日、ブティックアジダ御堂筋で催された。アンサンブル、スウィーツ、スリーピースといったアイテムはいずれも芦田氏お得意の正統派スタイルで、デザインの遊びは極めて少なく、長年重宝しそうだ。

今回は若い女性向きにニューブランド「ミスアジダ」が発表され、パーティ用の華やかなドレス類はいずれも新鮮だった。グジュ

ンアジダ」でもカクテルやイブニングドレスは仕立の良さに加えて、品良いおしゃれさがチャームポイントだった。

★KOBÉ・ベニヤ銀座店リフレッシュ

東京銀座ニューメルサ1F「ベニヤ銀座店」が、2月2日、リフレッシュオープン。気品あふれる神戸エレガンスをきわめたせて、感性ゆたかな女性のニューライフ・スタイルを提唱している。



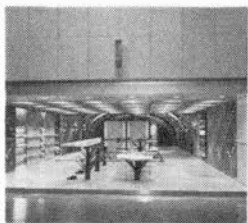
リフレッシュしたベニヤ銀座店

7-18 ニューメルサ1F
電話 03 (574) 80112

★待望の TAKEO KIKUTI が神戸に。

ビギより独立し、御ワールドに移籍した菊地武夫の新ブランド「TAKEO KIKUTI」直営店が、1月23日、神戸にデビュー。

メンズ80%、レディース20%と、まだまだ従来のメンズが中心であるが、徐々にレディースブランド「SPINNIUS」も増える予定。とにかくベイ



充分なスペースを使用した店内

シックをベースに個性的な着くすしを提案するのが菊地武夫のファッションの「刺戟的、激的な」魅力をもたらしそう。

また飛行機の内部に使用する素材を導入しての衣装も斬新だ。フリーになって、充分に個性を出しきる菊地武夫、ファッション先進都市神戸へ、うれしなぐりこみをかけてくれたようだ。

電話 03 321-3022

★毎月催される魅力的な展示会

ダイヤモンド・天然宝石・貴金属を輸入から卸、加工まで、宝石のことなら何でもという白寶堂(阪急六甲駅西300m)。

高級品を遊び的にデザインするなど、オリジナル製品が数えきれない程に並ぶ。勿論、好みに合わせてリフォームもしてくれる。毎月、恒例の展示会を催し、一つずつ奉仕品を提供、「お客様とは買っていたらいい時



接客する大野専務

からがお待ちあれ」と、アフタール120%に努める大野社長。また、抽選で来社の方全員に素敵なプレゼントが用意されている他、おぜんざいなど、旬のおもてなしで迎えてくれるのもウレシイ。

★梅岡みちこと織工房「神」作品展お知らせ

ハタイトルV 糸、彩る
日時 3月20日(木)~3月29日(土)
(3月21日) 金 PM 3:00~7:00
パティ AM 11:30~PM 11:00
会場 GALLERY & RESTAURANT「道」(TAO) 〒651中央区磯上通8丁目2-16 第一南ビル3F 電話 242-1508

ハタイトルV 手織物による、ウェア類(セーター、ブラウス、ボンチョ、ジャケツト、コート他)

作品は、すべて展示即売。神戸ならではの個性、本物の染める作品展。お見逃しなく。

〒658 東灘区魚崎南町8丁目9-15 204 織工房「神」梅岡 078 (4112) 0775

おとなの服。

パフュームが薫りたつように



'86 SPRING COLLECTION



serizawa
KOBE

■本店 神戸市中央区三宮町3-1-8 TEL 078-331-1695 ■さんプラザ店 ■センター街店 ■さんちか店 ■P-4ショップ ■メンズセリザワ ■KOBE・OSAKA・TOKYO・KYOTO・HIMEJI

■心ゆたかに■

アダルトな スポーティブ・エレガンス



「学生時代からスポーツが好きで、この五、六年はテニスに凝ってます。平静はパンツルックが多いのですがちよつとおしゃれを、という時はギ・ラロッシュが多いですね。材質とパターンがとても良いので長く着れます。ッスポーティブ・エレガンスというギ・ラロッシュのマインドが私にはぴったりですね」と西本さん。ギ・ラロッシュのコーナーとはもう十年来の付き合いなので、アドバイザーとも心が知れ、服装プランもたてやすいそうだ。

野球解説者、西本幸雄氏の次女。「父は最近始めたゴルフに夢中で、一緒にコースを回りましたが、あんまり口うるさいのでコリゴリ(笑)私の服装もキュロットとか気に入らないと文句を言います(笑)ギ・ラロッシュは勿論合格なので安心して購入できます」

GUY LAROCHE



ギ・ラロッシュはイヴ・サンローラン、ピエール・カルダンと並ぶディオールの三大弟子で、フランスのエスプリと機能性が溶け合ったデザインは多くの女性を魅了している。メンズから“フィジー”に代表される香水、きものまで広く進出しており、この春夏はブライトカラープリントに代表される華やかなフェミニンさがたまたまよう。

西本 都さん

ROYAL SALON

パレロアリアル

'86 SPRING & SUMMER

GUY LAROCHE COLLECTION

新館5階



Valentino
ヴァレンチノ・ガラバーニ



CÉLINE
セリーヌ



Aquascutum
アクアスキュータム

Gion Versace

ジャンニ・ベルサーチ

BOTTEGA VENETA

ボッテガ・ベネタ



FENDI
フェンディ



LANVIN
ランバン



マイセン



GUCCI
グッチ

TRUSSARDI

トラサルディ



ヘルノ



GUY LAROCHE
ギ・ラロッシュ

GIORGIO ARMANI

ジョルジオ・アルマーニ



ミッソーニ



HERMÈS
エルメス



スーツ (コットン100%) ¥98,000



ワンピース (コットン100%) ¥89,000
MODEL/KARLA HOKANSON

SOGO
SANNOMIYA KOBE

■私のアメリカ〈2〉

マンハッタンのホテルで

ファッション工科大学

バッファローのF.I.Tをめざす



松谷 年郎

(棟紅屋常務取締役)

「よくまあ、こんな国と戦争したものだ。」これが私のアメリカに着いた時の第一印象である。羽田よりケネディ空港に着き、迎えに来てくれた知人の車に乗り、マンハッタン島に入った時には、がく然としてしまった。ニューヨークのビルの高さ、大きさは、想像以上のものであった。マンハッタンの中心部に入っていくと、摩天楼という群れに押しつぶされそうなおちつけない「蟻」の様な気分になったものである。この様なビルの群れが、戦前既に存在していたかと思うと、国力の差、経済の底力の強さをまのあたりにみさせられて、そんなアメリカとの競争に導いていった当時の日本の指導者が、いかに世界を知らなかったかということを感じ知らされる。

その夜より、約一週間のマンハッタンでのホテル住いが始まった。一人で部屋にいと心細いものである。廊下の靴音一つにも敏感になってしまった。朝食は、

いつもホテルで取ったが、チップを勘定とは別にテーブルに置くのを忘れ、ボーイに二、三度催促された。慣れるまでは、全くやっかいなものである。昼間は、五番街や、エンパイヤーステートビルなど、市内を一人で歩き回った。今から思うと、タクシーや地下鉄を利用すればよかったのであろうが、慣れない土地と、不安な英語でタクシーに乗ってどこに連れていかれるかわからない事がこわかった。

そうこうしている間にも、まず大学への入学許可を得るために、英語の勉強をどこでするか決めなければならなかった。候補地は、ニューヨークと、バッファローである。ニューヨークは、志望校のニューヨーク州立ファッション工科大学(以下F.I.Tと略す)の所在地であり、バッファローの方には、F.I.Tと同系列の州立大学があった。ニューヨークに留まれば、F.I.Tにも近く、勉強の励みにもなるであろうが、なにせ日本人の知人が



「ニューヨークの窓」 PHOTO/菊池 満

多く、日本語で用が足りてしまうので、
にならない様に思われた。その点、バツ
ファローでは、日本人も少なく、英語で
ないと生活出来ないし、結局は、ニュー
ヨークに帰ってくることになるので、ニ
ューヨークとは違いたいなかの生活も経
験してみたかった。そんなわけで、バツ
ファローに行ってみる事にした。

ニューヨークから飛行機で約一時間、
バツファローに着いた。こうして、バツ
ファローでの四カ月間の大学の寮生活が
始まった。その時は、バツファローが、

私の人生の中でこんなにも大きな存在に
なろうとは思ひもしなかったのである。

筆者紹介

昭和23年生まれ、(株)紅屋松谷富士男氏
長男、昭和48年4月、米国州立ニュー
ヨーク大学語学部へ入学、8月同校を
卒業。昭和48年9月、ニューヨーク州
立フアッシュン工科大学入学。昭和52
年6月、米国州立ニューヨーク大学大
学院経営学部修士課程修了。昭和60年
5月、米国州立ニューヨーク大学国際
経営学博士号取得。

KANEKO SHINJU

— 真珠・宝石 —
金子真珠店

御影ガーデンシティ

神戸市東灘区御影山手1丁目 〒658

☎078(822)0581

●東京 ●大阪 ●神戸 ●福岡 ●長崎 ●佐世保



私を風にのせて伝えたい。

萌える若葉の香りとともに、

私の心、伝えます。

金子真珠店では、

そんな女性の勇気を応援します。

3月のサウナ・ビューティー

ハーブ(薬草)の薬効成分が蒸気になったハーブサウナ、肌をしっとりさせるハーブバスなど6つのバスできれいにリフレッシュ!

ハーブ(薬草)にひたつて、きれいになる。

★サウナ

女性の肌は、ふつう28日周期で新しい肌と交替します。サウナの汗は新陳代謝を若い肌のように活発にし、肌のくすみを解決します。

★冷水超音波バス

ほてったからだをひきしめ、サウナとの反復浴で、新陳代謝を高めます。超音波の働きで、老廃物もすっきりノ

★ハーブ(薬草)サウナ

ハーブの薬効成分を含んだ、白いスチームを浴びて。サウナで新陳代謝を促したあとなら、さらに効果的。肌にもからだにも、自然な健やかさを。

★ハーブ(薬草)バス

ハーブティーのお風呂。気分もときほぐします。湯あがりの肌は、不思議にすべすべ、ほかほか。

★温水パイプラバス

マッサージ効果の高い泡風呂に、腰、お尻のツボを刺激するジェット噴流をプラスノ血行がよくなって、リラックス度は満点。

★マッサージ・シャワー

6ヵ所から、強力な水のシャワーが肌を刺激。好みの強さに調節できます。湯ざめを防ぐだけでなく、肌を鍛え、みずみずしくリフレッシュさせます。

サウナとエステティック 神戸 レディスサウナ

神戸三宮・生田新道アソシエーションホテル向かい
TEL.078-321-4742・4741

営業時間 朝10時～夜3時 年中無休



サウナコース(平常)1,900円 マッサージ2,800円 ボディ・ケアー3,500円～7,000円 フェイシャル・ケアー4,000円～5,500円

神戸のお嬢さん 〈25〉

おぼこさんは

純情可憐がぴったり

黒田弥生さん

甲南女子大学国文学科
（四回生・黒田皮膚科医院
黒田政重氏長女）

黒田政重氏は神戸大学の先輩で、食事や旅行を共にする家族ぐるみのお付き合いがもう、十年以上続いています。弥生ちゃんとは典型的な「箱入り娘」で「甘いパパ」に可愛がられ、茶道、華道、英会話、料理など花嫁修業も準備万端です。甲南女学校の中・高部時代にアナウンサー部で活躍した実績があるので、その方面のお仕事にも興味を持っているとききました。あまり急がずにもうしばらくはお父さんの側においてあげては？

推薦者／志水謙次
（志水耳鼻科さんブラザー）

カメラ・米田定蔵



神戸のお嬢さん

〈26〉

八面六臂の活躍ぶり

嘉納ももさん

〈関西学院大学社会学部大学院
一回生 嘉納洋二氏長女〉



ももちゃんに会ったのは確か七、八歳の頃パリーでお家へお邪魔したときだと思う。約十年のパリーの生活を了えて帰国、早速うちの娘と付合うことでガラの悪い神戸弁を覚え、亡くなった小磯のお祖母ちゃんを嘆かせたものです。海星の頃は英語弁論大会で優勝しテレビに出たり、関学へ進んでからはフオークソングを歌ったり、スキーに熱中したり、そして大学院では何やら難しいことをやっているようで、正に八面六臂の活躍ぶりです。写真は小磯良平画伯(祖父)のアトリエにて

推薦者/永田良一郎
(永田良介商店社長)



カメラ・米田定蔵

映像の影響

昨年、パリ（装飾美術館）でインド展が催され、その後インドが注目されている。

ニューヨークも又、インドブームのようだ。インドは長い間西欧の人達を魅了してきた。そして今、新たにインドは注目すべき影響をファッションに与えている。火つけ役は英国である。二年程前、BBC放送が「ジュエル・イン・ザ・クラウン」と題した長い連続TV番組を制作し、好評を得た。

そして米国で一昨年の秋・冬にかけてこの番組が放送され、やはり視聴者を魅了して、又、同じ時期に、これも英国の作で「パッセル・トゥ・インディア」なる映画も封切られ、TV同様、大変な人気で長い行列をつくったようだ。映画の内容はおくとして、この二つの人気作品の中で登場する美しいサリーに身を包み、繊細なアクセサリーをつけたインド女性はエキゾチックなインパクトを多くの女性に与えたようだ。

この様な海外からの情報に目を通して、ふと気がつく。それは、映像媒体が流行のリーダーイングフラッグを又、持ち始めたナということである。

1960年代までは、流行は映画によってつくられたといってきた。ところが、ジーンズやミニによって個性が前面に出るようになった。1970年代からごく最近までは、この傾向は消えてしまっていた。それは「個性」に重点がおかれていたからである。

しかし「炎のランナー」以降（又、米国でマドンナを一躍人気スターにした上げたM・T・V（ミュージックTV）等）映像媒体からの影響力が重要になってきたことを強く感ずる。

当然、多様化、個性化を経た今のファッション状況のもとであるから、すべての映像媒体が必要で銀幕一辺倒にならないことは予測するが……。

今夏のインドムードとこれからの映像には注目したい。

